



新村の人口・世帯数		
令和3年7月1日現在		
世帯数	1,316	戸
男女	1,538	人
合計	1,647	人
合計	3,185	人

美術館特別講座

6月15日(火) アートレク
チャールズ講座が開催され、
松本市美術館学芸員の大島武
さんに「上條信山の人と書」
について話をいただきました。

書道の才能があり、学生時
代に長野県書道展最高賞を受
け、書の世界でも頭角を現し、
信州に聳え立つ山として「信
山」の雅号をもらいました。

戦後、連合国軍総司令部の
指導により小学校の毛筆習字

が全廃されました。信山の奮
闘により必修科目に復活させ
るなど書道教育に多大な貢献
をしました。また、多くの書
道教育者を育て国語の書教
育、芸術教育に尽力されまし
た。

信山の書法は書家「宮島
詠士」に師事し、ひたすら古
典を学び、書は自身を映す鏡
として築き上げ、何ものにも
捉われない書の境地に至りま
した。

書の楽しみ方について、文
字の線質・形・バランス・余白・
墨の色など感覚的に見ることに

からで良いと話されました。
大島学芸員は信山に師事す
る雅号「皎山」を持つ書家でも
あり、信山書風を見ていただ
きたいと、筆にたつぷりと墨
を含ませリズムに筆を運び、
大字の「環源」二文字を書
いていた講座を終りました。



信山書風

「地域探検」

芝沢小

新村つでどんなとる?



6月9日(水) 新村公民館
に芝沢小3学年2クラス、計
70名の児童が「地域探検」で
訪れました。昨年度から三密
防止のため、クラスごと時間
をずらして公民館を訪れ、新
村地区について学びました。

前半は新村公民館長から、
新村地区の成り立ちや公民

館・出張所の仕事などについ
て、説明を受けました。子ど
も達は館長の説明に熱心に耳
を傾け、一生懸命にメモを書
き記していました。その後の
質疑応答では「働いている人
は何人いるの?」「公民館の
高さはどれくらい?」など
次々と質問が挙がりました。

後半は公民館・福祉ひろば
職員、住民有志による「もの
ぐさ太郎」の紙芝居が披露さ
れました。ものぐさ太郎は稀
代の怠け者で、京の都に使い
に出された際に、実は自分が
天皇の血を引く高貴な人物で
あることが判明。和歌を通じ
て美しい伴侶を見つけ、その
後は順風満帆に人生を歩ん
でいくという物語です。

子ども達
にとって、
自分たちの
住んでいる
地域がどん
な場所なの
か、またど
んな人たち
が働いてい
るのかを知
れる良い機
会となりました。



新村の宝

八束穂

レジ袋が有料化
され一年にな
る。これは海洋
汚染、更には、
地球環境課題へ
の解決のため、
生活スタイルを
見直すキッカケ

になるようにと始まったそう
だ▼海中に漂い、野山に散乱
するプラスチックゴミを、エ
サと誤って吞み込み胃の中で
未消化のまま留まり、衰弱し
たクジラや野鳥が発見された
との痛々しいニュースを時々
耳にする▼ところでレジ袋有
料化が本当に有効な手段なの
だろうか。破棄されたプラゴ
ミの多くは、ペットボトル類
で、ポリ袋は03%だそう。
プラゴミ削減を目指すならば
プラスチック全体に対する規
制が必要だろう▼されど、今
やエコバッグ、マイバッグが
使われ出し、コンビニでも「袋
はご入り用ですか」と聞かれ
るエコバッグもレジ袋も石油
精製の副産物で地球環境への
負荷がかかり、更にエコバッ
グは50倍の環境負荷となり、
環境課題の解決にはならない
▼個人任せのキャンペーン的
施策より、分解性の高い製品
開発に向け、一層の化学研究
を進めてほしい。



健やかに◎

茅の輪くぐり
6月27日(日) 岩崎神社では、氏子総代が大鳥居の下に茅の輪を設置し、半年間の厄をはらい無病息災を願う「夏越大祓祭」が行われました。参加者は、無病息災・新型コロナウイルスのいち日も早い終息を願い、正面に一礼して左足からくぐり左へ回り、次に右足からくぐり右へ回り、もう一度左足からくぐり左へ回り、正面にもどり一礼してくぐったら、そのまま社殿に進みお参りしました。

茅の輪くぐり



心静かに 写経会



6月25日(金) 専称寺にて17名が参加しました。今回は般若心経を写経しました。262字の中にいかに

生きるか真理がつつま込まれており「人は永遠に存在するものではないから、苦しみの原因となる煩惱や執着を断て」と説いているそうです。ご住職の見守る中、1時間程の静寂でした。

3回目の体験となると、筆の運びもなめらかになってきたようです。希望者は納経していただきました。

おでかけウォーキング

6月24日(木) 11名で寿台、松原の3地区を歩きました。梅雨時で天候の気になる中でしたが、寿地区の百瀬陣屋跡、松原ショッピンダモール内の、昨年22年ぶりに復活した「からくり時計台」などを見学しました。

昼食後は、牛伏寺川のフランス式階段工へ。明治期の土木工事の見事さに感心しながら、緑の中の散策を堪能しました。



35地区制覇のウォーキングも残り9地区となりました。

頑張っ

て歩き切

ることを

目標に参

加したい

と話して

いました。

シリーズ

新村地区の輝く人 ②

『多色刷り木版画 思い出とこだわり』



太田 克己さん (76歳)

昭和49年北新西地区に移住、平成27年自宅別棟にギャラリー「太田克己木版画館」を開設。常時80点を展示。受賞歴多数。

●さつそくですが、多色摺り版画製作のきっかけはどのようなことで？↓定年後の生き方を模索していた50歳の頃、茅野市の営業先の隣に「浜澄三、版画展示場」があり、鑑賞して大変衝撃を受けました。その場で同氏に基礎の教

えを請い、定年後は版画で生きることを決意をしました。

55歳から始め、離職後の59歳から本格的に版画に取り組みることになりました。

●製作のやりがいとはどのようなところですか？↓判らないことが多く手探りで夢中でした。奥が深く様々な発見があ

り、興味は尽きません。難しい反面、完成時は満足感があり次作の意欲につながります。

●道具はどのような物を？
↓用紙は越前手すき和紙、

版木は6mmのシナベニア、不透明型水彩絵の具を使用します。転写盤、見当盤、保湿ファイル、彫刻刀、筆、ブラシ、バレンなどの道具が必要です。

●原画、構成はこだわりがあり、腕の見せ所だと思いますが？↓原画がつまらないと摺っても結局はつまらない作品になってしまう。最初の構図が肝心で、絵画とは異なる版画らしいさや美しい色にこだわっています。

●これからの目標など？↓自分らしく、見る人に安らぎを与えられ、見飽きない作品作りに取り組んでいきたいと思っています。

すばらしい多色摺り版画が展示され、身近に芸術作品があります。ぜひ、鑑賞にいらしてください。



「収穫」2013年9月制作

みんなの七夕飾り (新村保育園)



3年長

事前に電話で在宅を確認してから来館してください。
(販売もしています)
電話 471-2288